

クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）の 防除対策について

令和2年7月14日
埼玉県茶業研究所

本年のクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）第2世代ふ化幼虫の発生ピークは平年より早い（入間市根岸）見込みです。他の地域でも同様の傾向がみられますので、注意しましょう。

下記の情報を参考に、適切な時期に防除対策を実施しましょう。

なお、本年は新型コロナ感染拡大防止のため、茶業研究所にて実施していた防除適期判定会は中止にいたします。なお、防除適期の判断が難しい場合はメール等相談（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）かサンプルを茶研までご持参ください。

1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと各地点の茶株内温度のデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	防除適期 ()内は幼虫ふ化の推定ピーク
入間市（野田） 狭山市（笹井） 所沢市（林） 所沢市（東狭山ヶ丘）	7月23日～27日 (7月22～23日)
入間市（根岸） 入間市（木蓮寺） 入間市（上藤沢）	7月25日～29日 (7月24～25日)
青梅アメダスデータ 所沢アメダスデータ	7月22日～25日 (7月21日)

2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。

降雨日等が続いているため、防除適期を逸することも考えられますが、防除適期から数日遅れても発生が目立つ場合は、防除の実施が大切です。

3 防除対策のポイント

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場 この時期は、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で米ぬか（40kg/10a 相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。マシン油乳剤の散布も適期を逃した場合の対策として実施可能です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣・酒井

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp